



門へ 13  
3096  
3

昭和九年  
六月二十四日  
購入

夢想兵衛 胡蝶物語 卷之三

色 慾 國

下品

曲亭馬琴 戯編

東都

きよえ来るれのなり。するなりふ何とぞ迷ふ。すとりへどもあ不如。とをを  
梢の陽氣よ蒸らす。春花さく小壁すべ。花は是草本の嘆あり。きとも亦  
情慾の嘆あり。花ちうて實と繕ひ情合と子と生ぜ。草本班情ありべ  
元々相恋つど人をとて入へばよりのへ嗜慾の害あり。うやりて、きよ  
え来るりと。桃ハ三年生て花され。人を十六歳と。色情をもれて動とし。草  
本秋よりバ凋落。男女老と告ぐ。うけろくなじぶるりをゆく。あの  
有るきハえ来るりと。彼よ化さきとれへあぶひ。夫物の嘆へ人これを  
贈ひ只草本の嘆へ憎む。これと愛へて暮と。惜み騒客の詩歌と吟ト。

酒翁へ參詣る。況て情慾の暇又至く。或好すりの如く。或い或ひ或へ  
觸き。身を忘す。されりよ應。されふと謂あ。身の體へ氣翻と云。誘と  
きて酒よ造とべ。飲りの醉どとつまし。人のみ本の體。身紙もべど。設され  
きへ情慾の暇。身を忘す。身紙も曉とべ。美人へ血と色づ皮囊。いと可  
愛も殊言よか。身紙や空性へ。身人の身うち薰す。あくべ。身の匂くの  
つりのうれど。これえあぢみ気よると。兼好法師もあそれと。それと  
そあれ夢想兵衛へ。生韓非子です。損ひ生雁皮紙の横紙も破れど。浦  
嶋翁よ膏とぞられ。恨入とさくらふと。顛倒と老莊。すくと観けん  
と。そげ雲々と。女日照の中へ。あめど臆せど徘徊を。すも名よ  
ゆき慾國。中品下品と封彊を。武道よやつ。若と見る町風傾城八  
百八後家。牙婆計妙。御妻梵妻。お乳母守子。聲女梵妻。七福賢張。  
夷々男色。夜鶯夜饅頭。至るまで。色よ薄り。身漏れ。やつくり河と  
穀。見え茂兵衛河谷。小夜衣の奉加。半代半兵衛屋敷の  
入骨。尻が居。葛城町の不破名護屋。六齊の草履市。松山  
街道の枕久松。色気らびの物。五大力の海船同屋。五人至  
小家合と定め。三勝織の基本綿。半セ反の縁剥衣。身と。福ひ免税の看板  
へ。清玄鳳巾とりうと。麻番太が簷。よつまされ。園の小饅頭の竹の皮へ。  
身分半綿。結つて。旅籠屋の門。よづつ。重の井の水へ。身と。福ひ  
藤伊の森。ハタ霧よ。染うち桔梗せど。忠兵衛姫。梅川と。堰入と。船  
居士河原。ハタ霧よ。染うち桔梗せど。忠兵衛姫。梅川と。堰入と。船  
汲入と。濃紫のき揚。洗せ。初お房。徳兵衛。新田。百屋。が。七  
又名高く。販賣。お駒。芳く。三日月。おさん。名あ。いと。糸。よ。小糸

の魂あり。帯屋の四十男力。おもんと倒さ。梅枝が三百両。すま間と隔る。山村  
の玉屋。玉と瑕あり。東金の下銀。金と縁あり。化野の尾花。月の刀屋を  
招き。愛護の若松。ハ半弱女と引る。淨福理坂の十二段目。牛若皆鶴姫  
の山休木。あと一巴。堀河下る町の中程。おとせん傳兵衛が賣居あり。舟内  
の明鳥。めぐらすむと告げられ。山寺の鐘撞坊と。後朝。みえり障  
のくじ。男を廢と。兄弟がんとけり。媒妁用ひらまと。歌謡  
と。恋の湊の繁昌。一ト。それ廿四文の屋臺店。あつとふと押の蔭  
と。立と。ぐば。我武者の買食煩う。先へ鼻と落し。百洞うつた三つの  
大饅。八月の臘。夜をゆき。物喰の向え。ど。ぼちやくのからよと  
同へ。比翼鳥の吸物へ。煮賣酒屋と。佐用媛の化石へ。珍物茶屋  
と。玉蜀の大あひ。夏桃のあひ。顔ひ。とも毛ぶかん。山と。前と押へ

て。まづくらる。女陽込あひて。乳呑子と。させ。男陽う。透て。生豊後と  
のど。咽喉が渴べ。西山のうち賣ゆ。色う。直ぐ。ぬ。ぬ。ま。草。夜食  
の塊り。程胸よつと。経業師の一奉綱。渡すと。つけ。時び。今より。ひの  
せりあり。ハ計置の十二燈。うわどひねつと。縁詠。相生の判。勘ゆ。名捕  
の名。家書判へ。切がきの墨。きく。考へ。家元の指切。髪切へ。空誓文。よ  
うて。件の。う。それば。二の腕へ。を。ま。る。冬。へ。國。と。よ。と。い。三の。余。で。替。す。嫌。袋  
へ。掛。も。ぐ。一。紙。用。と。と。曲。と。の。固。藏。ハ。冷。水。賣。の。砂。糖。と。う。た。る。く。娘。乃  
か。と。ん。婆。ハ。蠻。の。と。か。と。み。凡。の。皮。と。う。そ。く。吉。清。の。と。う。夫。婦。喧。噪。ハ。夕。立。乃  
花。火。と。う。り。く。婆。と。か。居。り。楊。弓。ハ。引。役。の。薈。網。と。う。と。う。蒲。障。屋  
の。女。房。較。膚。で。も。ろ。く。團。子。燒。と。ま。ん。團。子。鼻。稀。され。ば。會。日。の。植。木  
と。見。合。の。道。具。建。と。つ。へ。と。朝。暮。の。開。帳。ハ。中。宿。と。利。生。あり。お。乳。母。の

日金。片手でけだりて。並床で勝らうと嫁へぐ。坊主の金剛。両足よ  
ひれにて。子守内燈の相談。邪魔す。井戸端。聚ひとれ。雨夜乃  
品定めと疑き。總雪隱。あづとれ。未摘む鼻の臭れを忘れ。賢弟  
の張札。小使とあづべ。讀む。在郷の幼訓。際へ都の茶飲友。どうし  
あづ。お妾の啓安。よす。顔でくら。稽古所の格子。さる。さうあづて  
人とよせ。お娘さん。裏返す。鼻猪。とよそよせるとれ。隻足。あげと  
轆と端んとよる響のどく。道落坊が便毒。潰て膏葉をなす。やせとれ。  
片膝立て。羅漢。似よう。わざわざ。按摩。氣水を減らし。暗かる導引  
放屁と厭ひ。険い。で廣い。水茶屋の前垂。と經い。でち  
りの。半元服の袖。羽織。浜打。馬下駄。すとれ。又次板を  
鳴らし。縄を被す。下堪馬。受とれ。鼻が半利と。巻く居る。昔此  
もと。今へもと。ひれとゆうえ。おさんと。よしあう子も。ゆびと大  
博連と異名。残ある。檀那。と。浅見と。必持と。半身。襟元と  
多く情人へ。切ること甚速く。足元と。御妻へ。博。あづ。起じ。  
か。半束の水髪へ。苗残を。よあづ。かづ。あづ。の横梯も。  
天窗の片荷。づよあづ。腋の下で。結び。さげ。幅廣帶。前よ。ある  
くと。それば。忽然と。後。ある。女房の腰。腰と。天網代の花活よ。  
文殻と。持。備残乞と。怖。よ。嗅と。怖。男兒の生。と。缺。よ。  
と。娘。嫁。ア不定役と。野夫。ありと。き。子の習紋と。嫁。よ。  
先祖の法名へ。覚えねど。た女の名。よ。と。青。子の習紋と。嫁。よ。  
慾國。中呂下島の風俗。うれば。苟くも。色え。れり。の。の。畠。よ。ねび。よ。  
夢想。兵備も。今へ紙鳶。か。放。よ。毎日旅館を。と。て。人物。よ。生。て



むくも居まとどつらく以るよ。この地の人氣多く、鼻の先智惠は  
て進む紙あきども退くときく。敷金の女房へ。身を安ましめて。亭  
主と尻み布た。からみを揚る仲人へ。つまび揚足す。アシが浮情を棚へ  
あげ。男より餘人の身榮あきべ。女より餘人の己惚あり。旦よりきりとして。又よ  
せう。去年の朋輩。この春へ夫婦となる。世帯の女房くり先へりう。  
借残の子どもやう不濟法又よう。尻も結取縁定め。死神の社改又  
立在。首のむくぬ物前へ隨得寺の山又翁り。年中ひざこどありと  
り。ども。是非の判斷するりのう。道あるぬ底と憐ぐ。義理又缺う  
き男子と可愛ぐ。偽と飲んで。晦日の月とくづ。誠もくろりと  
物り花と。仏法ひまくムチを。うわうるみゆりひ。儒道ひまく行止と  
て。衆道終よ冥利をひ。夫釋子の雪山又薪と鷦。も衆生を滅度せん。

あ。孔子の陳蔡よ。糧を絶ても。道を弘んが爲く。これとまく。の幽へ来て。哀  
の病を救ひ。日本。廣言。もあひ。浦嶋仙人の教訓へ。くる。ども。と  
も。一紙の告文を書きえ。これを竹のうへを。天竺山の苦丞相。さぬの浦  
崇徳院又す。家。の棟の屋う。高く。うわげ。風。おじて。趣。されば。一丈紙書きの  
切う。雲を。うと。因に。ゆく。夢想共。渴。これを。そ。

駄。風。食。の。か。ひ。ぢ。ぬ。た。う。や。

れこーの。と。子。す。こ。ぶ。り。ん。

と口吟。曉茶の飴。腹を。う。筋ひ。ある。人を。う。宿。人。彼告文を。拾ひ。そ。れ。ば。  
夫恋の病。と。う。そ。四百四病の算盤。も。う。思案。の外。の難病。も。療治。施  
易。か。う。げ。昔。黃帝。と。素女。と。問。妙論一篇。と。著。し。釋氏。慈惠の  
穴。と。塞。で。比。仁。五戒。と。持。漢武帝。の返魂香。ハ。往々。う。び。の。ま。と。種。を。羅

公遠が貴妃陽へ。二番煎じりよく功す。てよりて石雄へ。夙とえよと  
藥ちび。松浦へ石茱の餘毒の残る男女冥暮の骨がうちまへ。竟よ皮  
肉の膚縁とす。親類の薫茱りつひびてもその驗る。又母の吸  
うべ血で血をあくべども愈る。こなぐ年が来よされど。病ひ劇に時  
ハ年をすこむ。死分毎を投て。當分の居所よどつれ。百年の命をすれ  
りのふと。千日寺の土とす。室悲しくじや。室痛しくじや。予ヶ家  
幸よ家方の良薬あり。これの難病を救へべ。但薬ハ調進よ乃びど。  
見脉を診て。病原を論じよとれ。眼中春を生ぜゆ。忽地感ひの雲霧  
て。了簡脉の下よからつれ。魂入りきりて。すくの人のとす。その効恰神  
の如し。病氣平愈の後よとす。毎朝仁義五常湯よ堪忍五兩を加へ  
絶ぞ服用。餘毒を補ひりべ。冠子下がりのよ合す。

とぞ記し。つづくの浦でも、慙とちくねりのまゝ。施療治とあせば、利  
ぬをうみが。損のやうめりのうう。青うす正音とも悪とも。こゝけのつるは病を難  
ゆ。たりの人のえとてふく。迷ひの雲がむとるうたう。こりやさんまうでも  
あるまいと。小了簡のあうりのへ。朝うとうを兵衛が生張へ結やきびをと  
けうくのも。人をよめんよううて。彼も行。とんもあふと。次方よ繁昂て入  
口うれしもと。行家の山寺観法は門へどく。人をか耳て側て聴く。とく  
きの蒲焼屋の息子内の豪居が高くうつて。とくら豪中の難症あ  
酒屋のゆきそん焼餅がとて。歩の引のうす脂積み。こうび鮎を食ふ。  
腹の大玉くさりと。娘あり。裙範よあくと。まくら。あづみをむ甚ふ。お  
それかくすで。お月の一ナ番へ。まご三十より四立。もとくぬ老後家をと  
もうと向く。鼻をうち通つて。同れと可覺ら。小矢葉の縞縮緬よ相應を下

思黒孺子の幅廣帶と前で玉手と結びありて憶せどアリテモハシト  
ヤドケ素人めど。爰志兵衛が高坐の所とうよ膝行うて。ちとすよ會釋  
し。こそへもえ來ニテ國のりゆよあべ。大日本山城國山崎の百姓何ドガ娘  
ふく夫の為よりと賣し。首尾の憂患堪難効の中より失夫ハ非業み死  
の事もよえ。身ちよありてハ後の世と吊ふう外よどぐもろく西國順礼を  
うひとも。すゝへぬ旅路よ紀の浦。ふく。凡餘人の余合私吹流され色慾  
と名す。國へ恩されど今ハりうけも。うれ夫へる様の寡婦。すし昔共  
す。杆屋<sup>タケヤ</sup>幸見<sup>タキミ</sup>三種<sup>ミツイ</sup>これと教てやうやよ。秀の命と従棹<sup>ツヅカ</sup>よ。す。住まれぬ加  
世帶<sup>セダ</sup>是す工<sup>ハサウエ</sup>ある身ひとも。す。ぬ形<sup>ナガハ</sup>ハ在々の室<sup>ムロ</sup>つゝれ伶<sup>ヨシ</sup>傳人  
因果<sup>カイン</sup>とろべど前<sup>マサニ</sup>の世の。す。あくとねば惑<sup>ハシブ</sup>ひへをと。神も伊もうらめと  
つ。歎<sup>カク</sup>ハちと境<sup>カミ</sup>。雲霞<sup>クモハスカ</sup>がそよぐ。晴<sup>ハ</sup>して母<sup>ハ</sup>よまうす。意病<sup>シテ</sup>

ス。す。ねどえへき。ひとへが身の。す。あそりナスもろぐと委細の  
祝<sup>ハ</sup>ハあうちもと紫服<sup>シラフ</sup>紗<sup>シラフ</sup>一冊の奉<sup>ハ</sup>と。生<sup>ハ</sup>や。夢想兵衛受<sup>ヒ</sup>  
て。假<sup>ハ</sup>名<sup>ハ</sup>牛<sup>ハ</sup>忠臣<sup>トシチ</sup>と外顎<sup>トコ</sup>を洗<sup>ハ</sup>うち急<sup>ハ</sup>せ。そんそん<sup>ハ</sup>、ハ塩谷<sup>シタヤ</sup>の浪  
人<sup>ハ</sup>早野<sup>ハシノ</sup>堪平<sup>カンペイ</sup>とら<sup>ハ</sup>す。かう<sup>ハ</sup>とめで<sup>ハ</sup>ざる<sup>ハ</sup>と同<sup>ハ</sup>てあ<sup>ハ</sup>す。う<sup>ハ</sup>脩<sup>ハ</sup>  
恥<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>とめ<sup>ハ</sup>。す。も<sup>ハ</sup>果<sup>ハ</sup>ご<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>。テ<sup>ハ</sup>す。ものか<sup>ハ</sup>女郎<sup>ハ</sup>。今<sup>ハ</sup>  
身<sup>ハ</sup>と現<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>。志<sup>ハ</sup>の病<sup>ハ</sup>療<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>。何<sup>ト</sup>く<sup>ハ</sup>よ<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>。と<sup>ハ</sup>向<sup>ハ</sup>て  
間<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>小膝<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>。身<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>。病根<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>。下<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>推量<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>。身<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>。全快<sup>ハ</sup>  
せぬ<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>。身<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>。病根<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>。下<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>推量<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>。身<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>。全快<sup>ハ</sup>  
ハ口う氣<sup>ハ</sup>の怪<sup>ハ</sup>。殿<sup>ハ</sup>のあんたるよ居<sup>ハ</sup>あへせば。最<sup>ハ</sup>期<sup>ハ</sup>の供<sup>ハ</sup>よ後<sup>ハ</sup>。へり<sup>ハ</sup>詫<sup>ハ</sup>  
うれ<sup>ハ</sup>越<sup>ハ</sup>度<sup>ハ</sup>すれど。忠<sup>ハ</sup>義<sup>ハ</sup>の志<sup>ハ</sup>へ人<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>猪<sup>ハ</sup>狼<sup>ハ</sup>の身<sup>ハ</sup>のよう<sup>ハ</sup>あく<sup>ハ</sup>食<sup>ハ</sup>  
す。や<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>石碑<sup>ハ</sup>建立<sup>ハ</sup>の金<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>て。歎<sup>ハ</sup>討<sup>ハ</sup>の連<sup>ハ</sup>判<sup>ハ</sup>。かう<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>身<sup>ハ</sup>

頑ひ。エ夫エ面のまゝえちう。舅の仇人定九郎と餐と酒を。あすねば却て化と  
えり。あさうの返答あたつまう。まことにやまくべよ。腹をきくえぬ  
あするまれ。神仏もうちめく。あさ親与一兵衛より。百姓でこそあれ。頼  
りの人。あさ一人の女兒を賣ても。婿は忠義とぞさせんと。年老の  
夜行を厭ひ。金そのへと帰り道ある。定九郎が又よから。アが有るを  
も夫の為よ。操と捨て花街の勤め年季の明るをあらへり。親  
夫の精進日も。あすらどよアセカツヒ。天道をまゆ情かほ。あすねば  
忠義への仇みく。貞女烈女ハ神仏上。憎きりのみやあらん。アのまく  
あさるまく。み色慾の國よ生とく。浮気よアシム。一生の得とヤス  
リのふあとどや。アの悉ひのこすりす。お療治あられて下さり。うな。と  
あづらふめくわづり。客躰つけう幸氣病。妄想兵衛ハはくく

丈て。ルと破とくら。する母どと見へむづり。世よ傳氣する。娘子どもや。  
性のまゝん息子ゐるが。うぐくと尽く。うぐくと。六段目のどんまくま  
よまくでん。アシムヨロが身の惡のこゑ。アヒアマラ有。療治もあら  
ど。アシム愚癡よ。堤やくまつて。揃そどきよ半間。アシム。此も彼儂皮  
の脱。息子や娘が已惚境。アシムと違ひて。生忠臣と生貞女の己惚れ。  
懃よ小才覚があるや多。人のあらぬ難病。アシム。良薬がある。アシム。  
進せざ。アシドが給事あめられ。塩谷の奥方。アシム。前が師直  
と恥。アシム。アシドが身を賣て。夫の為。アシム。アシム。アシム。  
ち。アシム。アシド。病症で。アシム。アシム。女賛。アシム。牛賣。アシム。アシム。  
も。アシム。アシド。師直が横を慕。アシム。毒を食ひ。四才で舐るといふ。人外ふ  
ふ。アシム。アシム。不養生。アシム。論。アシム。でもう。アシム。分別されど。出で方の奸佞耶智ハ誰

まくぬきのものは。殊も直義朝臣を餐庖司の師範されば。敬して遠離する  
あくへひ。しきうれ女の鼻の先みそ。日もあるべしよ。餐庖の當日。場所を憚  
せば。女を使ふ立て。夫の手で小夜衣の経冊を贈りせ。恥ほじと  
御せよ。已後をうるむであらんと。悉皆氣のうごく。空牙鑿  
うごく。ものもあらぶ。當坐す師直が艶書を投げられしる。  
索白みうろみの似も。トヤ十戒の古歌ありとも。夫は告げて。師直は  
贈え不義なり。礼は男女へづく。授受ぞどりて紙も。且ぬ女の  
悞き。又判官ども判官ども。奥方もあまうまれし。何のゆとも聞ひざめど。  
妻があづく。眞とぞ。亦すくねどく。女箱をそめあく。執事へ遍よ  
あされこのうさ。これとへ一向論外す。ちづれば塩谷どみ歎歌せ。又へ小夜  
衣の経冊をうごく。あづて氣を多い亭主が。腹の立つたるれあまらせど。

女の才へたらうる。うくん。正直もとふとく。やアリ。やんざす夫の腹を  
とくとあうつ。真直よりととのひ。乳をちく人と闘争させ。禍を惹  
かし。貞女とえいひ。又へ子の房よ隠し。子へ又の房よ隠すと。正直  
へその中よあり。かしげぬよ前もと。眞の貞女とえいひ。況て  
ソウの大膽を敵さ。つよ主命もとづく。豫金の所の表門へ夜の  
うちやう推条。供よつまく下部。鼻薬を餅。早野氏と密  
会ひ。あまうねじよ身ぐり。主の囚徒とあまうねじよ。喧嘩。と  
棒うちだり。本内と桃をあみて。主君の罪をす。夜あけぬうちもと。と  
まくぬき。うちやもさん。不忠不義の人うちもと。悞て改めよ。憚る。と  
うけとば。大星氏のまぐくの大半。推量。夜討の人数。かづく。と  
希り。うく。うやうううう。うるへぬ。と。の本物の旨よ立つ。と。ま。

ちとぞとて。舅の仇人定九郎を殺さうれど。猪がとろへてくすと  
と機銃で。びくして葉へまんと死人の懷へ手を下へと財布を  
綱で莞尔と。俄頃よひのうろこへ。その賊公をもく定九郎はおらば。  
腹へそれな。なぜとりひき。畢竟ニツエで敵ともうる。男の仇人を。金  
ハ女房賣する金もんべらそもうけと。うでハ一向そのそなまれど。全く放炮  
竊み飲み。不景の財とりく。恨の功名せんとぞひ。その公をや汚れ  
す。聖人へ渴ちても。盜泉を飲む。賢者ハ凡田も履を入とぞ。鷹の匂  
ても種へつまざと。世よく見え。早野氏も人の枉死を辛ひよ。志を移す  
とれハ前の聲も虚文より。聲と取るよ。缺て。切どく強盜ハ武士の  
すとひもやるどとあると。義院よくとんごうをちかげよりとぞ。稀ゆく  
ありて。公がとて口実を。まくも傷痛けれど。の理を緩やす。失貪ハ士の  
常なり。武士ハ食がと高養歯。とく説ひあれど。切どく強盜ても。大る  
事なし。何の代ゆかられ。甚しけれ。恨み。廉士ハ遺金を。まくとんを。  
あれば早野氏の大死へ汝よ生と汝又返る。天理うれば。神仏にやみなべど。  
竹田出雲とも恨む。色慾の身を倒す。病ひ不景の財へ。命を縮  
る毒せうり。死曉り。日來曾我物語を読く。疑ひ。不正  
あり。曾我兄弟ハ純孝の勇士なり。祐成時致幼稚とぞ。又の仇人  
祐成と。幼いとぞ。志移と。十八年が間。百折千磨の艱苦。み。似ぞ。  
祐成の大隊の郭をひいて。母女虎と相欵び。時致も化粧板。少和と  
契り浅く。ばとぞ。仇と。想報人とも。假初も色慾よ。志と  
移とぞ。真の孝子よあらば。つよく曾我兄弟の人とすりと考るよ。

色を好む人あり。譬へ大星氏の祇園町多くねび誠とて。仇人  
よひ放きん計畧るゝけとど。席へるもとの在女あり。人をあるの  
方ありて。君が一夜の情みハ。妻が百年の命も惜めどとて。祐成が為  
よ尼とす。こそ吾光寺へ赴たるるべ。これの義理とよく考  
む。サヌ君又の仇と窺ふり。動もそれば。乞慾ニ志と報モ。といへ。現  
あ。すや奉意と遂るとも。ゆくと五は狠あがど。を恨むべ。そ  
示す。又の所駄又与一兵衛と。百姓あへ見あげ入人物。うごくと  
の娘を賣ても。婿は忠義を立させと。と彼駄又どの久らへと。母  
ゆくぬせよ。去す。女は三従の道あり。家よあつて。又  
従ひ入よ遁て。夫よ後ひ。夫死。子よ後ひ。是所謂三従也。と  
ハ既も堪卒と。夫あり。その驯獣へ又母よ告じ。闇隙と檻牆と踰る  
搏り合ふり。又母と互に許して妻とれば。と夫よ従へべし。あらゆ  
身賣のう。夫よ説令と。納ぬすすよと。あらゆ。深く匿し。親子三  
人内離さる極り。眞実ふ。不寔あり。畢竟一文字屋才兵衛よ。伴  
え。合へ。夫が立つれば。とよけ。告じてまことに。月をアフ  
キムモの罪脛とば。そなへる矣。よてん惑ひ。匿してよれ。と。あら  
ゆ。人よ醋と。互に。とれ。ふ。家よろみを。ある。隣で貰ひて。その人よ遣す。す  
きのふ。正直實儀と。アリのあひ。凡忠孝信義の爲。子と賣。妻を賣  
りの。魯女が故よ遂と。とれ。子と捨て。女と伴ひ。易牙が。その子と。羨美。  
あ。と頼ム。よそと。同日の苦節。そ。皆是名聞。と好む。惑ひ。アラ子と  
娘の子と。アリ。親一た。至親と捨。人情よ。あひ。況て。アラ子と。毅と。媚を  
主。居よ。求る。虎狼。あら。彼。その子と。愛せ。事。争う。誠。尼を。あ。め。ん。

う。夜をこあてひとう山崎へゆき。一里もよ。忽地禍があふる。すや金を所持せどとも。危たさあるもの。むとう夜行せど。況て五十両とく。大金を懷み。野道山坂の婦とひろく。ひとうをぼくとぬりそん。石と抱て。深き洞より。臨もよも危い。り定九郎は出會び。かまうべ半負猪とやく。火急の金よりとも。ふぞく嗟とむがうる。れもづくと招く禍す。女児と賣る不仁の金。忍地女と叙ぐ。又とろりぬ。豈あそんざんや。その日既に定九郎が又は従兄弟す。り脱ぎたりやとく。すんざく見透され。懐の金を押隠す。れへ毎食の握り飯。娘がくと返魂丹でござるをば。勸解より。もうよ。やくと小兒ども欺き。うるおとれへ。虎もあづべ。彼を既に金よ。ふあつ。争賠話とまくべき。馬の怒きとれり。騎べく。轟合犬へ。ひびき。り跨る馬よ。鞭て。いよいよ走る。齒む大を噛んとほんとほんが。却



手を傷くる。慮ありりのん。これと近つて。昔漢朝の陳平が楚より逃て。僕  
又仕人とせりとれ。楚の兵又追とれりとく。殊ニ道を急ぎ。夜野渡す  
そりかくて船を借り。向へどもとせりよ。二人の渡守へ強盗多く。この夜網を  
張て。またもぐるとねられ。陳平が船を借るといふと。竊々飲び。うろ  
よく案せとく。中流へ漕ゆ。矢度又殺えとぞ。氣色を陳平をす。猜して。  
二人の渡守よ射ひ。やれも幼き。水濱又あらしき。船と漕じて。うろ  
おのく。あや体も。おのれうそ漕べ。とひも。船と漕じて。うろ  
うり。すと船と漕へ。盜賊等はの形容をとく。さそへのり。懷よ金へ  
あそんだり。ものすれど奴を殺す。何へせんとく。急地よ予て死絶。終よ向ふの  
客へ送り。一經よ陳平へ九死とせく。一生を保ち。衣服と船よ捨て。岸へ  
跳りよ。まごの辛苦もとれど。遂よ漢の高祖よ仕て。官位左丞相まで  
経のがうね。示宗祇法師が行御せり。山ぬを越よ。盜賊あり。宗祇  
が鬚のうがれとえく。生鬚はれ金うり。剪て賣むやとろひて。林の中う  
きり出。右ゆよ又と引挽。左もよ宗祇を捉て。既よ鬚を剪らんとせ  
とれよ。宗祇は騒ぎよけたう。アホが高よ簞笥の鬚へゆきに。塵の  
うれ世と捨もうよ。と詠よられ。盜賊大笑よ甘心。放て林の中へ  
入じとりひ侍く。彼陳平が赤裸ようりて。物あれと示し。賊の事よ死絶  
す。臨機対變の妙計。又家祇が狂歌を詠じ。賊難を脱す。ハ危  
の盜賊。歌ともうじへ吹けて放とぞ。尙ほ闇非心非佛の頃ふも。  
詩人よ遇びて。獻びて。あれとあり。詩とあよね人よ。詩と贈り。大笑よ。之。  
宗祇がうの寓言よ。それば陳平が才とりそと。賊よあふて。衣服を  
じよ。失ふ。況てその餘の凡人。物と命と。兩うす。全うす。死ひんや。り。山中よ賊

と出あつて。又が勇。彼よ勝べくへ。これと戦ふべ。又が勇。彼よ勝ぐべ。速よ  
物を与へて。命を保えあつべ。一物よ愛情もとれ。物を失へのとある。  
ど命も又じるべ。大よ憤り。群小よ恥じくと恨とせむ。あれば。一  
兵衛。又。枉死をめざれ。自業。自得。うかび天道。うまが。又。敗  
辱をされ。とく。神仏。と恨を。うべく。その場。とまし。仇人  
定め。郎を撃た。をゆひ。天道。うま。如方。ん。五分。でも。遠ぬ。所。  
そそぞ。下り。めりひと。通り。そり。下り。夫。告。そ。身。と賣らん。と。ひつめ。い  
ひぬ。ち。み。せよ。夫の爲。と。あき。ば。や。う。下。石。も。ゆ。ん。が。當時。早野氏。ハ  
入。聲。う。年。老。ゆ。ひ。一。兩親。へ。孝。娘。の。う。へ。そ。ば。ぞ。只。官。よ。身。と賣。ト。全。  
希。ひ。へ。不孝。の。う。の。不孝。こ。それ。が。又。貴。平。右。衛。門。が。祇。園。町。ふ。く。を。回。  
よ。め。ぐ。う。会。親。と。夫。の。横。死。せ。代。告。う。と。死。た。下。の。と。一。兵。衛。ど。う。代。變。て。

うち驚。く。ぞ。堪。平。ハ。腹。切。て。死。ど。ん。也。と。は。く。や。り。う。や。俄。頃。よ。う。つ。て。  
や。く。死。ん。と。き。う。親。と。夫。と。そ。の。恩。愛。ひ。き。う。あ。れ。腹。へ。と。れ。な。の。日。愁。  
傷。の。よ。き。の。じ。ふ。も。父。夫。の。精。進。え。も。と。ぬ。こ。う。が。不孝。の。罪。と。く。せ。め。く  
り。の。と。れ。と。殊。拂。よ。笑。ゆ。く。と。す。ご。そ。の。口。の。乾。る。や。ひ。ぬ。よ。物。倅。け。ん。が  
き。え。へ。非。業。な。死。で。も。年。の。う。堪。平。ど。の。ハ。三。十。よ。う。や。ろ。う。び。よ。死  
ぬ。と。く。れ。と。殊。拂。よ。笑。ゆ。く。と。す。ご。そ。の。口。の。乾。る。や。ひ。ぬ。よ。物。倅。け。ん。が  
き。間。ち。づ。く。子。簡。や。ゑ。よ。祇。園。町。ど。一。夜。の。うち。ふ。二。度。月。が。生。ち。づ。く。す  
す。ふ。る。り。く。る。ぜ。と。り。く。か。跡。が。あ。る。と。死。入。る。月。の。山。科。よ。う。へ。一。里。半。と。あ。れ。が。  
月。が。入。つ。果。と。が。へ。る。い。う。の。後。太。夫。が。縁。の。下。と。文。と。う。も。と。死。月。敷。よ  
透。く。る。が。い。と。あ。れ。が。一。晚。よ。月。が。二。度。生。な。べ。月。敷。み。へ。透。く。る。が。め。く。と。く。ど  
り。す。め。の。雲。が。れ。く。月。あ。ぶ。雲。よ。入。る。月。と。エ。ミ。く。ー。ふ。り。の。そ。それ。も。と。

ツモ。ち一かト不孝な貞女とリソリのスリ。親と夫の恩愛と天秤より  
あひそべ。その天秤が折るとも。怪重ハヨムリのドヤ。歎モ年よモ莫ニレバ。  
非業の死をもれても。是非がる。夫ハまた年よモ年よ。後切て死ヌ。が。の  
悲シキ一倍ナモとえり。よソリの不セ。時でも。人あへば。せれぬ口上。す。が。や。  
全体夫の爲。ありとも。既。又。穀の客。又。を汚して。年季。が。明。と。が。又。四。の  
夫。と。ひ。と。う。よ。ソ。ル。と。そ。ひ。ん。き。慾。う。と。生。く。了。簡。ち。づ。ひ。そ。く。女の。公。操。と。正。く。  
する。道。理。と。生。く。ね。恨。る。う。あ。り。ト。る。の。る。ど。金。翻。入。全。傳。と。リ。小。説。は。翠。翻。  
ト。ア。人。箱。入。娘。か。金。氏。の。息。子。と。夫。婦。の。ゆ。ひ。あ。れ。ど。い。ま。婚。姻。ハ。そ。の。く。  
ど。そ。の。う。ち。よ。取。又。が。矛。よ。係。し。不。慮。る。エ。ブ。起。つ。て。囚。徒。と。ろ。り。し。く。が。親。と。  
救。人。為。よ。己。と。死。ひ。じ。翠。翻。が。矛。を。賣。く。そ。の。罪。と。贖。ひ。ぐ。既。又。穀。の。人。不。  
矛。を。汚。され。一。く。結。髮。の。夫。又。恥。て。後。み。尼。と。る。妹。と。り。そ。彼。金。郎。又。妻。セ。

ち。ハ。通。は。至。極。の。始。末。ヨリ。と。そ。一。且。賊。首。の。妻。と。る。リ。これ。よ。づ。く。し  
カ。の。寛。を。報。い。う。の。る。ど。ハ。女。子。の。才。学。又。る。だ。く。る。と。そ。ト。よ。う。て。論。び。  
と。れ。ハ。經。早。野。氏。が。恙。る。く。て。せ。よ。あ。り。と。も。恥。を。き。く。バ。年。季。あ。け。て。後。み。尼。  
と。る。と。ん。ま。ん。貞。を。破。て。貞。と。全。き。と。り。ベ。年。季。あ。け。て。後。み。尼。  
夫。婦。よ。ろ。と。ん。と。ぞ。ひ。ん。き。慾。の。腐。が。ぬ。け。ぬ。友。の。腐。ひ。る。し。二。人。川。の。上。ま  
立。く。一。人。溺。る。と。た。ハ。一。人。岸。よ。う。テ。伏。り。て。放。ひ。ぐ。に。そ。リ。ト。夫。婦。の。貌。又。く。み。を。見  
立。く。一。人。溺。る。と。た。ハ。一。人。岸。よ。う。テ。伏。り。て。放。ひ。ぐ。に。そ。リ。ト。夫。婦。の。貌。又。く。み。を。見  
立。く。二。人。水。中。よ。う。テ。伏。り。て。放。ひ。ぐ。に。そ。リ。ト。夫。婦。の。貌。又。く。み。を。見  
立。く。名。利。よ。溺。立。ト。か。る。よ。夫。ハ。妻。と。放。ひ。ぐ。便。る。い。妻。ハ。夫。と。放。ひ。ぐ。便。る。く。  
親。ハ。子。と。放。ひ。ぐ。便。る。く。ど。る。と。ろ。の。と。エ。鶴。の。觜。わ。ど。齟。齧。一。そ。の。根。卒。ハ  
そ。り。が。ひ。ご。づ。ト。あ。り。起。り。え。べ。罪。障。つ。ま。消。滅。せ。ど。の。色。愁。國。漂。る。ア

大和姫おおわひめあさとをうらぶる。あさると名告あひ道みちつことすりて。ちゑと。  
紀の砂さの浦うらの家合いあ。暴風ぬ暴風よあへて吹ふぶされ。それからこまぐの憂苦うき  
勞は。推量あらうすれやせ。やせうやせが弓ゆみ傍そばのすのすれど。弓ゆみへが夫おとこ幸こう  
い。桃井もいの家の忠臣ちゆんじん。娘むすめが夫おとこ大星おほほし力ちから。唐山とうざんの晋きんの豫讓よじょう。ふ朝あさの由  
良よし之の助すけ。日本にほんと唐とうよそく一人ひとりの駆くとりし。力ちからが妻めよなづか。ハ  
女め御ご后妃ごひよ備そなへりよ。女めよ稀まれす。娘むすめが手柄てがら。他ほかる事こと無なく。され  
ても夫おとこの家いえ。死死とバ卒そつ弔たむと。令下れいげすまぬ貞じん弘ひろ。今時いまの娘むすめ  
かづきあひとく。世よの人ひともヤスゲ。正ただめとくとももゐるを歎嘆す。あくまでもうう  
とふとくへ。と身みよもゆくとぬ絶ぜつ俸ほう絶ぜつ令下れいげ。娘むすめが婚姻こんいん。そのへど。  
弓ゆみが身みよもうと定さだめ。忍極しのぶ。弓ゆみひきを奉まつめが。令下れいげを捨すてまくと  
その日の弓ゆみ叶かなれど。や未まるがそもせも。ゆと別べつきの薪こ柱しゆ。

それも雨氣のるるれど。二十又三と娘小浪。後家をそそて親夫の  
菩提を吊る。骨せんと。族もひも赦す。捨てたれせよ存念てき慾  
團へ伶俜と。目盲よ境の門ちがひ。これとそば負へ女をど。形立ふりのへば。  
元團の娘子どもが。まく年もゆうぬうち。いざのあめれとくで。有得  
み家へと漂致と申す。やくよ支度金をとく。もの家の家花を  
りくよびがむ。後より取次で引うつて。左團でくとまくる。せふへ往くの  
るくひじ。天道誠と昭す。依怙恩負へとまれぬ筈。とおぐく  
とよく氣も漏る。り氣の茶もあるよ。調合るまれてひきうすせと。  
あとすよ物もえべ。小浪やそりよ手とつと。母の前の宣ふと。そつと  
をや後家よろじへ豫て。学えかのうるれど。アリゲ馬よ殿ゆと。ソハカル  
えんよろ外うへる。團へゆうてそくをまよ。そうりひ訳があらふとも。外の

男とりうとへり。ヤドヤくとそひつ。一生後家でアヒとの灰樂んで居す。  
よ。而もそりよき慾團へ吹流し。風の神かのすり胴慾世よ貞女  
とりの。龍神や風の神の憎すせりとソハ訳と。吹て惑ひがむれると  
る。療治るされそやさう。女のか病。やうけども。夫をそよぞうへつ  
る。ストそらびのるのす。おもすきる。口のうち。谷の戸あけて。學の枯木  
よ宿り風情の。夢想兵衛うち笑を。いやくそアヒの病症も。意の病  
の困どこの。アヒ。又加古川氏のす。ひろくナギも。意の症。そりへ  
ひだきそそく人を。それひまづそれ。ソアヒの病症も。ソレヒ  
貞女そそと自誇あり。どさん不結髮の夫でも。アヒ。婚姻も。ソアヒ  
よ。女子のす。ひうつむく。淫婦と。そそる。既又桃井殿の屋  
敷す。櫻應司のす。よつて。力が。使者よさせよと。死。自ら甚

ちくらへをぬく。あまのすゞけ。りそと力弥が長坐して、合  
あく。の支度でもせず、腰もそえぬすれど、俸はそりのまゝひで、  
そく、一俸取うちの騒がそえきのう。縫内縁ゆきべとく。大切なるを  
用よ。女子をそろそろ、口上の間ちびあつて、とりてあかぬもつとも  
礼節といふ。あわざうもあふれぬが、あらな禪もござりますい。もの  
をあえん。了簡ちびく。あやふむよ娘外婚姻を整てやうとふとく。山科しきてみ  
推忌嫁入り。塩谷殿を抱きあつきて恨があれべ。大星氏の不承勅より  
理の當れ。さうと猜へて奉着どん。主君よりの暇を請うけ。女房子  
めりふむ志トモ。虚す僧よ坐して。既よりの事。力弥よ教されて。判友  
を抱きあつる帳面を消させ。その夜の婚姻をそろ結べよと。悉皆狂  
人の沙汰なり。從今お舞戯るどりよりめぐ。人情とうち出でて。豈人ア

ふせんえん。せんえん ふ  
かく。不告入も。告入の部へ入る。貞女は仰る。大徳婦也。貞女の部へ入  
き。どうぞ人の気をとる。死骨一よどんば。死すりのもの又哉の字は引あく。  
ま死骨皆かど。これより甚じれても往くあま一ど。勸懲を宗とせ。唐山  
の小説をどきへ絶てす。まとば桃井殿の家老職、うてか。もうやうす  
ちくくすとぞ。さて亦その夜、鎧の計みゆせよ。奉公めどりが。大星氏の  
内室。か石どの歟。膝の下よ細布くとえく。その子とうてか。一すゆ免されど。  
力弥が直さま槍をうちて。加古川氏を刺さり。ひともゆめくを苦あれど。  
由良之助がもとまく頬で立歩く。めづしや奉公めどり。計畧の念願届  
き。臂力弥が手よかつて。まご奉公めどり。ごうめく。おまくろす己惚口上  
そ。その又と頬」と。その女兒と。アが子の婦よまく。養とりべま。その臂よ  
毅されて。アが女兒と妻とを信とつづれた。アが女郎へ。自



害せらるる時冥<sup>ホシ</sup>。やうぜどり。又を叙そめへ結髪の夫ナリ。  
あられバ力弥<sup>アキヤ</sup>と。又の仇とぞとてへ貞あるべ。示これと讐言<sup>アヒト</sup>。怨<sup>アラシ</sup>と  
報<sup>アハハ</sup>。孝<sup>アシカ</sup>と。又も否<sup>アモ</sup>と。夫<sup>アキ</sup>も否<sup>アモ</sup>と。又の枉死ゆ  
されあゑすんば。只速<sup>アキタチ</sup>よ死<sup>アミ</sup>するの外なし。あらゆ。婚姻の稱りぬとぞあ。  
自害せんとぞ。その手<sup>アシ</sup>がわざと吹て。ちびく<sup>アヒタク</sup>の聲<sup>アヒト</sup>とえども  
自害せど。忌服<sup>アシガ</sup>の遠慮<sup>アシヨ</sup>と繰<sup>アシカ</sup>びよ。その夜<sup>アシヤ</sup>とよま引枕<sup>アシタマ</sup>と並<sup>アシタマ</sup>べん。  
懶<sup>アシタマ</sup>を樂<sup>アシタマ</sup>しよあ<sup>アシタマ</sup>とぞ。さもく何<sup>アシタマ</sup>ぞ。サヤ<sup>アシタマ</sup>と道理<sup>アシタマ</sup>とそそらべ<sup>アシタマ</sup>。

遂<sup>アシタマ</sup>ひり。嚮<sup>アシタマ</sup>す母<sup>アシタマ</sup>に前<sup>アシタマ</sup>が標致<sup>アシタマ</sup>と<sup>アシタマ</sup>りエテ死<sup>アシタマ</sup>宣<sup>アシタマ</sup>ひ<sup>アシタマ</sup>。是<sup>アシタマ</sup>ハ毎度<sup>アシタマ</sup>ヤス  
リ<sup>アシタマ</sup>ふく。賢女<sup>アシタマ</sup>ハ義<sup>アシタマ</sup>る<sup>アシタマ</sup>ど。又<sup>アシタマ</sup>人<sup>アシタマ</sup>へ賢<sup>アシタマ</sup>る<sup>アシタマ</sup>。色<sup>アシタマ</sup>と好<sup>アシタマ</sup>む<sup>アシタマ</sup>。一生<sup>アシタマ</sup>の<sup>アシタマ</sup>と  
お<sup>アシタマ</sup>い<sup>アシタマ</sup>。顏<sup>アシタマ</sup>色<sup>アシタマ</sup>の<sup>アシタマ</sup>と<sup>アシタマ</sup>人<sup>アシタマ</sup>と擇<sup>アシタマ</sup>ト<sup>アシタマ</sup>ひのへ。女房<sup>アシタマ</sup>も熟<sup>アシタマ</sup>の妓<sup>アシタマ</sup>も。お<sup>アシタマ</sup>り<sup>アシタマ</sup>ト<sup>アシタマ</sup>やう<sup>アシタマ</sup>よ  
り<sup>アシタマ</sup>。浮<sup>アシタマ</sup>氣<sup>アシタマ</sup>の食<sup>アシタマ</sup>と<sup>アシタマ</sup>うれ<sup>アシタマ</sup>ば論<sup>アシタマ</sup>う。されば<sup>アシタマ</sup>。累<sup>アシタマ</sup>の<sup>アシタマ</sup>うる<sup>アシタマ</sup>女<sup>アシタマ</sup>が<sup>アシタマ</sup>よ<sup>アシタマ</sup>と<sup>アシタマ</sup>い<sup>アシタマ</sup>。  
ぐ<sup>アシタマ</sup>る<sup>アシタマ</sup>けと<sup>アシタマ</sup>ど志<sup>アシタマ</sup>の<sup>アシタマ</sup>りの<sup>アシタマ</sup>。賢<sup>アシタマ</sup>と擇<sup>アシタマ</sup>で。顏<sup>アシタマ</sup>色<sup>アシタマ</sup>と擇<sup>アシタマ</sup>。家<sup>アシタマ</sup>ぐ<sup>アシタマ</sup>とえまん<sup>アシタマ</sup>。  
嫁<sup>アシタマ</sup>あ<sup>アシタマ</sup>え<sup>アシタマ</sup>擇<sup>アシタマ</sup>。脣<sup>アシタマ</sup>と擇<sup>アシタマ</sup>。脣<sup>アシタマ</sup>と擇<sup>アシタマ</sup>。家<sup>アシタマ</sup>ぐ<sup>アシタマ</sup>とえまん<sup>アシタマ</sup>。  
男<sup>アシタマ</sup>の<sup>アシタマ</sup>と<sup>アシタマ</sup>い<sup>アシタマ</sup>。至<sup>アシタマ</sup>極<sup>アシタマ</sup>底<sup>アシタマ</sup>と<sup>アシタマ</sup>仰<sup>アシタマ</sup>え<sup>アシタマ</sup>。始終<sup>アシタマ</sup>の  
よ<sup>アシタマ</sup>と<sup>アシタマ</sup>が<sup>アシタマ</sup>。その月<sup>アシタマ</sup>へ脣<sup>アシタマ</sup>と<sup>アシタマ</sup>仰<sup>アシタマ</sup>え<sup>アシタマ</sup>。一旦<sup>アシタマ</sup>そ<sup>アシタマ</sup>結<sup>アシタマ</sup>ん<sup>アシタマ</sup>と<sup>アシタマ</sup>縁<sup>アシタマ</sup>の糸<sup>アシタマ</sup>と<sup>アシタマ</sup>ねい<sup>アシタマ</sup>ま  
と<sup>アシタマ</sup>まん<sup>アシタマ</sup>と<sup>アシタマ</sup>あられ<sup>アシタマ</sup>。人參<sup>アシタマ</sup>飲<sup>アシタマ</sup>で首縊<sup>アシタマ</sup>と<sup>アシタマ</sup>。結納<sup>アシタマ</sup>と返<sup>アシタマ</sup>え<sup>アシタマ</sup>と<sup>アシタマ</sup>い<sup>アシタマ</sup>。又<sup>アシタマ</sup>ね<sup>アシタマ</sup>ば<sup>アシタマ</sup>つまでも<sup>アシタマ</sup>つが家<sup>アシタマ</sup>と<sup>アシタマ</sup>養<sup>アシタマ</sup>ひ<sup>アシタマ</sup>れて。大星<sup>アシタマ</sup>親子<sup>アシタマ</sup>か。仇人師直<sup>アシタマ</sup>と<sup>アシタマ</sup>殺<sup>アシタマ</sup>

うて。腹をうへ後へ小波女郎を尼まへ登せ。一生不犯の比丘尼となるべ。ちうだひして。婚姻と。う結べやふへすと。死の慈悲あり。さうどやそろく不簡が。脇の下へおちつたすと。と問うべし。扇とひんて胸うちあげば。あらへましく戸南瀬小波の。忽地迷ひの雲霧て。あいす悲ひす。の日來るが。始終のゆくあらうる人が。世も稀なる貞女とぞ。義理が結であひきと。りくよ已惚く。げゆむさうとこれうやうて。神仏と恨み。義理よれ不簡らひ。お療治を受す。爰の愛するやうも不え。面目ひ方めぞうす。と感。僕袖と絞る。爰が兵衛へ菟珍うて。さもあり。すもあん。ひかづれと。卒復せんと疑ひ。とひおがト。倦口のくと。戸南瀬が従者。息ももくまう来て。戸南瀬

母子と。ひれと。ほびと。船頭をもがすと。日波船と。終覆て。順風をまうと。吹しご。やうつ風へまこと。今纏をまくと。船がりのふ何とぞ。一ヶ月も。年日本へ。えりゆねと。こもれれて。爰が兵衛が療治の効驗。是れども。利りゆると。三人の女子へ。競うとありますて。礼きひす。床もす。暇乞うと。従者。うつ。一散。よ倦のゆくをうゆく。されば。日辟集の男女へ。あら小波木が。病症を逐一。え霧伊左衛門が。小波川忠兵衛が。道行すと。とく。よ。理とく。やうりのゆく。憐み。うと。感。堪。うと。それより。うと。立あら。雲よ。ト。く。の。も。う。の。貞女烈女と。らふ。あら。女郎や。小波川寮の房のうち。離碎。とく。笑。が。義理よ。稱ぬ。う。ま。う。況て。仮と。法とも

志す。五音們。色慾をもつて。恥をもつねば人み。人の致ゆる  
アゲニ。取くへゆる。と。療治を受て。志の病の根を剷除する。  
せ立の曉と。一粒とも定業も。世間するまに五六十ある。生延りゆる  
あぐし。有がやまと。豪傑兵衛を伏侍。隨喜渴仰の声  
耳よ満。あぐへ鳴り止ざれば。豪傑兵衛の鼻高く。とひとつせうる。  
す。あれ少年幽き。紙鳩の上めじ。友。承うけ。お任せうる。不  
教島かくらの格。よく教訓をもろべ。天晴孝行の人物。芳  
らぬすよと。残念千萬と。おや聖人。おどよき  
うるこらして。坐中を信と見え。せん。忽地二十ねぐらうる大男人。情屋  
利口彦と名告て。むく。阵巻。諸肌脱ぎ。手のみ白刃。引揚群集  
の中。うろ離り。生れ。美れ。兵衛と。盼つけ。この生毛唐人奴。ままで

語訛と吐て。人を惑ひ。古今。双の癖者。あり。おね。ゲソ。う。  
世界の男女悉負實廉直の人と。るべ。身。一日の狂言が納めど。  
かくも老くる。樂も哀も。勞も。抑。ころ幽ハ。閑閑。う。も。  
き慾と宗とも。衣。衣服も新。れ。と。の。往。向。形。也。化。國。よう。覗  
賣。き。そ。陰。と。蒙。う。り。の。か。く。ど。さ。る。よ。う。で。一。生。後。家。を。う。り  
す。う。き。バ。親。新。の。厄。凶。よ。る。り。の。う。娘。子。ぞ。も。ひ。と。う。で。挣。ぐ。く。ふ。  
婦と名づく。夫。名。の。名。と。も。さ。へ。常。の。名。よ。あ。と。ど。道。乃  
道と。と。ぐ。く。へ。常。の。道。よ。あ。と。ど。畢。竟。仁。義。の。忠。孝。の。と。名。と。つ。け。る  
ハ。聖。人。の。私。み。く。天。ハ。あ。づ。く。高。く。地。ハ。お。づ。く。低。く。き。よ。り。の。世  
み。く。へ。袖。と。左。よ。あ。り。髪。よ。り。の。由。拂。る。く。す。よ。や。き。慾。國。の。人。それ

びとて。兄弟。そら夫婦。と。うする。のむろく。きの。考。よ餓。て死。む。り。のゆ  
る。男色。へ倫外。の。文。う。す。と。ど。こ。ま。と。禁。ト。だ。じ。き。情。あ。れ。ば。す。常  
あ。る。地獄。あ。と。バ。極樂。も。あ。る。桺。へ。綠花。へ。紅。の。つ。う。春。あ。と。て。用。す。花  
る。く。時。あ。と。て。情。の。動。ぐ。男。女。の。あ。と。ば。鳥。の。春。媾。合。ハ。陽。よ。疫。ト。あ  
萌。と。草。本。と。共。み。と。う。死。か。り。く。鳥。の。羽。ハ。木。の。榮。と。象。る。猫。の。正。月。ト  
媾。合。ハ。時。の。ち。ト。め。と。恋。む。う。と。う。死。か。り。と。猫。の。暗。ハ。十。二。時。を。辨。む。下。春  
女。ハ。陽。氣。と。感。じ。と。男。と。名。し。秋。十。一。陰。氣。と。感。じ。と。女。と。名。し。鹿。の。秋  
媾。合。ハ。陰。氣。と。感。じ。る。水。鳥。の。夏。媾。合。ハ。陽。氣。と。感。じ。る。扇  
交。と。べ。月。と。暉。ゆ。り。陽。の。陰。と。祀。と。之。兔。と。牡。と。越。と。バ。ぬ。ど。享。む。  
そ。の。氣。と。感。じ。る。と。夫。陽。ハ。ひ。と。う。ゆ。う。と。陰。ハ。ひ。と。う。立。と。陰。陽。合。散  
あ。と。く。四。時。移。ふ。る。と。そ。り。春。ハ。い。ま。す。く。夏。ハ。猛。く。秋。ハ。悲。く。冬。ハ

哀。又。天。又。四。時。あ。と。バ。人。又。喜。怒。哀。樂。ゆ。う。え。バ。人。の。心。と。和。氣。き。う  
え。ハ。う。釋。氏。ハ。か。く。と。モ。曉。然。と。禁。む。そ。の。入。情。よ。及。す。や。ゑ。又。和。尚  
も。る。每。き。中。の。餓。鬼。の。ゆ。う。水。ハ。匱。る。と。も。乞。慾。ハ。禁。め。じ。ね。妻。子  
ハ。夜。服。の。工。衣。食。足。と。礼。節。と。ある。と。あ。と。も。礼。讓。酷。け。と。べ。人  
和。せ。ど。礼。ハ。親。と。つ。と。所。以。又。ゆ。う。ぞ。家。榜。一。つ。で。貫。く。と。女。房。す。う。え。  
一。生。そ。ひ。と。げ。ぐ。る。み。ハ。あ。と。ど。十。荷。舟。荷。の。嫁。入。道。具。と。四五。日。す。う。う  
運。」とも。一年。と。そ。ひ。と。げ。ぬ。夫。婦。も。あ。る。且。有。用。ハ。す。事。の。中。よ。あ。る。と。  
の。尾。ハ。振。べ。よ。用。る。あ。れ。ど。も。鳥。の。尾。を。剪。と。え。ハ。遠。く。乃。飛。び。ど。人  
の。手。ハ。折。べ。よ。用。る。あ。れ。ど。も。人の。手。を。傳。と。え。ハ。遠。く。乃。走。と。ど。れ  
と。り。と。れ。と。見。と。び。目。前。の。理。ハ。外。外。の。理。よ。あ。る。ど。有。用。の。用。ハ。多。用。の  
用。よ。あ。る。ど。舌。ハ。東。う。る。れ。ど。脱。び。歯。ハ。堅。け。と。ど。脱。易。と。歯。の。脱

易と博で舌の用をもとめや舌の歯の用をもとめ各  
乃すふゆて歌舞戯の世観あり。乞慾國ハ乞慾國乃  
世界ゆ。おぬが有用の解となりて。こが有用の用を捨。おぬが目前乃  
理と推て。こが理外の阿祇折んとある。舌となりて物を嗜ミ。歯となりて  
水をもくらんとある。如一。おれつゝ。おぬが為体をよす。齢四十  
及び妻あり。年へ豊なきども。肚饑きるる面つら。世へ暖  
されども寒えよあくあぐ。足母の國よ身をかたうねて。からむにまう  
す。生どつたあれ。養歯で海をひとの隅とぞい。うるさうる。らひされ  
陝へ偏徹枯る理屈ひづればよし。誰がそれとよく喰べる。この國みをあ  
らぶるよ。ふる事無く。おもむくよ。かくよ。顔回も長生せば。聖人とぞい。

孔明も上壽を保べ。王とすゞ。蜉蝣も朝よ生きて夕よ死ぐ。蝴蝶よ生きて死んで見る。槿花も七日衰む。桃よ生きて死んで見る。蝶の男女も五六十まで生きて死ぬ。かねが教とまざるとみな賢人貞女とすゞ。人の惡れ咎めゆく。又が若れりひび。つまご信せられどもて。口と諫められた。執り誠とあり。ざんり。頗るとくた舌を弄る。細首うちかげて至る。ぞと罵る声雷のどく。又と内一つ跳り見て。九そと礎と砍きば。勢ひよ辟易し。群集の男女へ散つ情う。東西へ散乱し。次の日より絶て一人も夢想兵衛が療治と請はず。ありつけとばらぬよと懇よ歎待する。旅宿のゆゑも。どうこうひて。あや一ヶ月もおもとづとあづがおふか戸南懶木よ便船と日本へみどりしそと後悔もよくぞれば。ひよく旅宿を立ち。倦口の方

へ赴くよ。驚き捨てた漁船のう。ごよ至く爰お兵衛へ。忽地曉て横手  
を抱。色慾よのま身と寢とえ國ふと。約束よりのうど。爰みのえり  
ど。あるよ今ちうじる。一艘の漁船ゆくと主さんへ。彼浦嶋僕人ぐ。  
強飲貪婪の二國へ。船とりて送りすぐと。宣ひへ是ろくと。さうばやくと  
いとう兵隊。因りとまで。纏と解とひよく。不以該や四方真闇よもつて。  
浦風帆と吹あり。船を忽地澳へ吐て。走らむと箭うちもをやく。  
千里ゆくす。万里ゆくす。ゆくもせうよ吹流すと。一昼夜うて。  
彼風をため軟をく。酒の匂ひ芬くと。鼻の邊を通す筋。強飲國の  
大底底援の浦よ著よ。

## 總評

道よ達するりのへ。道ようて故。情よ通するりのへ。情をりて纏く。

公道人情兩り難い。倘公道とりて論されば。人情と如何。人情の  
隨よ競け。公道と缺く。只理とりてれと推とた。柱よ膠して。琴下を  
調うが。夫みづくとえども彼をまつ。みづくとひじて彼を得る  
力の。それ人のひづくとひく。みづくとあひくと得ど。人の適くよ適て。  
みづくと適よ適ずかの。孔子へ仁義と重と。盜跖ハ利欲と重と  
そ。各ひづくとひくと。そひづくと責む。相罵うとてへ。声の大なるもの  
えよ傍。相聞へとれハ猛りのゆあづれよ傍。彼が傍べくざるふとれ。  
こまよ勝りの慾と重とする所以。こが傍べれふとれ。れよ傍う  
り。仁と重とそる所以。浮薄の眼力ハ。眞の強弱とえど。而り。  
考の心疾く。傍めのものづく。強が。役夫人受けとが天よ傍。天室て  
人よ傍天の弱死よめく。人の強きよあく。寡の固よりて衆よ歎

づ。小の國よりて大の敵一せし。苟も情慾多たらんに。仁義もこれ  
よ勝る。一條の箭の筋の筋をわざと。十條の箭の筋へおどす。恩愛と色慾  
と人情の裏手人所。人故繁しきべ。山も凹も。人情の裏手不必囮る。  
水清け色巴魚住む。人情りんが慾寡し。清き紙捨て濁ふ。おび  
安たを取て。危をよ衆む。うれりと濁りのひよく濁り。危なりの  
ひよく危し。既よろの危を死ある。かくとも安うべ。坂の中  
すもう身砂あり。泥の中すも刺さるよあら。それと懼て登れりのを  
擇え。擇えと入よ。おとよ。只その獨と慎むよあら。

夢想兵房胡蝶物語卷之三終



